

夫婦は拝み合い

神様が人間をお造り下さる時、一番最初にお造り下さったのは夫婦の雛型です。一番最初にお造り下さったものが、最も神様の思いの篤いものだと思います。ですから夫婦は、神様が切ないほど思いをかけてお造りくださった陽気ぐらしの核といえるでしょう。

夫婦の理合いを分かりやすく説明しますと、左手は男の理、右手は女の理、これで夫婦です。左右の手のひらをぴったり寄り添わせてみると、水でも溜まりません。夫婦の心がぴったり寄り添ったら、金がたまる。財産がたまる。子宝がたまる。幸せがたまる。幸福いっぱいになります。

夫婦の心がぴったり寄り添うには、どういう心がけになったらよいのか。それは、拝み合う心です。「うちの旦那さんは、天下逸品の旦那さん。結構な御主人。」「うちの女房は、わしには過ぎた女房。鉄のワラジをはいて探しても、こんないい女房は見つからん。」と、お互いに後ろ姿を、手を合わせて拝み合うのです。

私たち夫婦は、結婚して四十年近くなりますが、いまだかつて喧嘩したことはありません。毎日、拝み合って通ってきました。だから今でも、新婚と同じように、楽しい夫婦生活を送らせて頂いています。何から何まで欠点だらけの女房ですが、神様が、おまえにはこの女房が最もふさわしいのだと、広い世界の中からたった一人選んで、私に与えてくださったのです。私には、過ぎた女房だと思って、拝み続けてきました。女房もまた、私と同じ思いでしょう。

夫婦は、このように陽気ぐらしの核なのです。しかし、心遣い如何によっては、反対に陰気ぐらしの核にもなりかねません。左手と右手が離れ離れになっていたら、隙間もできません。隙間からは水が漏れます。金を儲けても漏れます。財産も漏れます。ついには、可哀想に子宝まで漏れてしまいます。病気や事故はもちろん、子供の非行化もみんな、夫婦の心に隙間ができた結果です。子供が悪いのではありません。親が悪いのです。漏れるように隙間をつくっているのですから。

夫婦の心に隙間があったら、どんな宝を恵まれても、みんな漏れてゆきます。夫婦の心の隙間は諸悪の根源と言っても過言ではないと思います。

出典：『話の台』天理教道友社 Web ストアより購入可